

人が情報をつくる。

東京芸術大学大学院映像研究科

藤幡正樹

1)作品の紹介

- ・インタラクティブ、イメージ、記号、文字
- ・記録、マッピング、位置情報、アーカイブ
- ・展示という形式の限界

2)ポケットフィルム・フェスティバル

- ・場所をつくり、共有する。

3)「「描く」を科学する」研究助成

- ・科学技術と芸術の接点

4)大学院映像研究科

- ・映像メディア学、研究と想像の実践
- ・研究者、及び作家養成。

作品を物として考えると：

作品と作るとは、

素材と技法によって実現された価値である。

作品を見るとは、

その価値を読みとることである。

コミュニケーションの側面から見ると:

作品と作るとは、

素材と道具とのコミュニケーションである。

作品を見るとは、

作品を通じて作り手とコミュニケーションすることである。

作品をメディアとして考えると：

作品と作るとは、

素材との対話を通して、

作り手の表現を明確化する、その過程である。

作品を見るとは、

作り手の創作行為、その過程を

共有することである。

コミュニケーション = コンテンツ(意味内容) = メディア(伝達媒体)